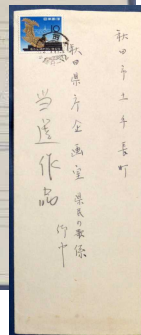
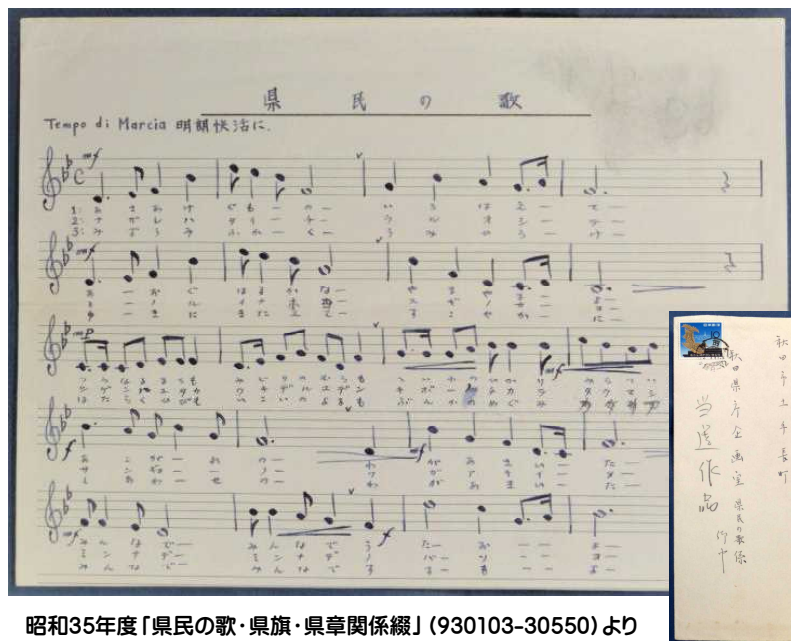
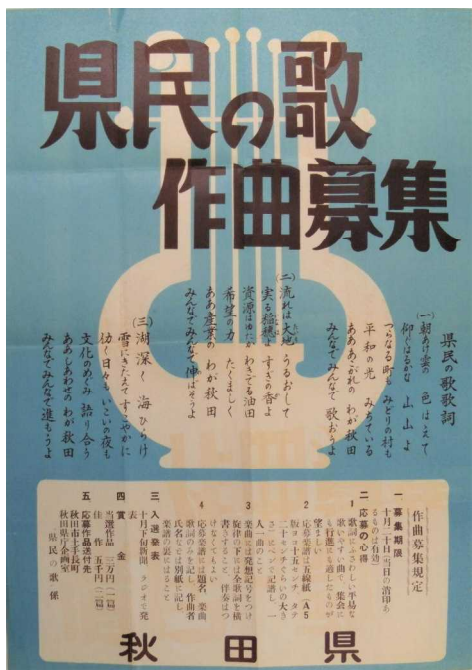


公文書館だより

第40号

令和4年6月1日



ポスター・封筒・楽譜、これらは「県民の歌・県旗・県章関係綴」の簿冊に入っていた資料です。昭和34年（1959）、秋田県では県民の歌・県民舞踊・県章・県旗の制定について一般に公募しました。前年に八郎潟干拓着工、翌々年の国体開催を控えた秋田県の躍進を象徴する出来事でした。

県民の歌の歌詞には、北秋田郡森吉町の大久保笑子さんの応募作が当選しました。プロの作詞家が補作して完成した歌詞について、次に楽曲が公募されました。応募231曲から最終選考に残った4曲について、テープに録音したNHK放送合唱団の歌唱を聴いて審査しました。意見が割れたため、秋田市内の旅館栄太楼で最終審査会が開かれ、4曲をピアノで演奏して審議を重ねた結果、秋田高校3年生の菅原良昭さんの応募作が選ばれました。写真の封筒と楽譜は菅原さんの応募です。

翌年には普及のためにレコードが製作されました。紅白歌合戦に連続出場していた林伊佐雄とラジオドラマ「新諸国物語・紅孔雀」のテーマを歌った井口小夜子のデュエットで吹き込んでいます。

今後の行事予定

◆企画展

(前半) 8月25日～9月25日
(後半) 9月29日～10月16日

◆公文書館講座

●古文書解読講座
6月24日・7月1日・8日・15日

●記憶の護り人養成教室
6月2日・7月14日・8月4日・9月8日・10月13日・11月10日・12月1日

◆県政映画上映会

8月25日・26日
今後の情勢によっては変更の可能性もあります。ご了承ください

利用案内

◆開館時間

平日 9時～19時
土日祝日 9時～18時
(書庫内資料の利用申請は17時30分まで)

◆休館日(令和4年度)

毎週水曜日
年末年始 12月28日～1月4日
特別整理期間
6月9日～6月14日
12月8日～12月13日

休館日についてはウェブサイト、または当館内の掲示等で御確認ください

古文書解読講座の開催にあたり

当館が所蔵する江戸時代の古文書や明治時代の公文書などの多くは、楷書や行書の書体をくずした草書で書かれています。初めて目にした方には、まるでミミズがのたくった文字に見えるかも知れません。しかも現在ではめったに使われない^{そうろうぶん} 候文、つまり高校の古典の時間に習った文語体です。江戸時代には、簡単に速く候文を書くため、筆記体のように日常的にくずし字を使っていました。



令和3年度の古文書解読講座（初級編）

欧米と異なり、日本の公文書館の場合、利用者の前に手強いくずし字の壁が立ち塞がりません。でも大丈夫！

手強いくずし字の壁も、鍛錬、つまり練習の積み重ねで次第に乗り越えられるようになります。当館では、今年度も左記の日程で、くずし字を読み解く鍛錬の場を提供いたします。初級編の4回は、初めて古文書解読にチャレンジされる方にお勧めです。講師がゆっくり参加者とともに、比較的やさしい古文書を読み、解読の基礎を学んでいきます。

中・上級編では、初級編では飽き足りない方、これまで古文書の解読経験のある方

を中心にした古文書を講師とともに読み解きます。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止の場合もあることを予め御承知おきください。

実施日	講座内容
6月24日(金)	①【初級】家老の日記で学ぶ古文書 ②【初級】所蔵資料で読む秋田のくらし
7月1日(金)	③【初級】佐竹文庫に見る幕末・異国船の男鹿来航 ④【初級】戸村家文書に見る秋田戊辰戦争
7月8日(金)	⑤【中・上級】大坂冬の陣、今福の戦い ⑥【中・上級】久保田城下名所めぐり
7月15日(金)	⑦【中・上級】御鷹を飼う

出前講座のご案内

当館では「あきた県庁出前講座」の一環として、地域の公民館や学校などを会場に講師を派遣しています。昨年度は5件170名の利用がありました。写真は、今年5月に横手郷土史研究会へ出前した際の様子です。

日程や内容が決まりましたら、美の国あきたネットの「令和4年度あきた県庁出前講座」から申込用紙に記入し、当館までFAX等でお送りください。そして、講座の終了後は、受講者アンケートをダウンロードして記入し県生涯学習課へお送りください。コロナウイルス感染予防の場合、オンラインで出前もいたします。



会場：横手市総合交流促進施設あさくら館

閲覧室からのお知らせ

●資料の写真が撮影できます。

閲覧室にある複製された資料は所定の手続きでコピーできますが、書庫に収納されている資料は歴史資料が多く、コピーをお断りしています。代わりに写真撮影を許可していただきます。現在、特別閲覧室3室で撮影できず、満室の場合は、使用をお断りする場合もありますので御希望の方は早めの予約をお願いします。

●古文書相談日（予約制）のご案内

貴重な歴史資料の散逸や劣化を防ぐことを主たる目的として、相談者が所蔵する古文書の保存等の相談に対応します。毎月第2・第4火曜日を中心に実施しています。●個人ブースで県政ニュース・だよりを見ることが出来ます。

閲覧室では月替わりで数本まとめて毎日放映しています。このほかに、1本単位の視聴にも対応しております。個室ブースでの視聴となりますが、1本当たり約10分間の放映です。

図書館にお出での際に待ち時間等がありましたら、秋田の昔の映像をご覧いただくのはいかがでしょうか？

「岡本元朝日記」

完結

「岡本元朝日記」(混架七一三八〇)の刊行は平成二十七年に始まり、今年三月に完結(全八巻)となりました。家老職にあった岡本元朝の日記は、藩政の記述が中心とはなりますが、赤穂事件(一・二巻)や生類憐れみの令(三・七巻)など教科書記載の出来事についても詳しく書かれています。その一方で、世間で囁かれる興味本位の噂話などにも触れ、好奇心旺盛な性格が垣間見られるのもこの日記の特徴になっています。

宝永六年(一七〇九)八月二十六日の条に秋田藩江戸上屋敷(東京都台東区)東門向かいの旗本屋敷を舞台とする傷害事件の顛末が記されています。老中配下の作事奉行の下役である豊奉行の主人から、前年秋に「しかり(叱り)」を得て追い出された小姓が、それを恨みに夜中、主人の寝間へ忍び込み、斬りかかったというのです。浅傷の主人の反撃により、逃げた小姓でしたが、落とした脇差から足がつくこととなります。

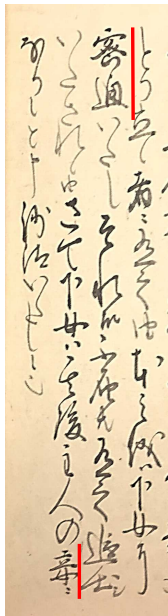
しみせん堀(三味線堀)を舟にのり、うら藪より寝間へしのび入、主人ふしたる蚊や之外から切候へ共、うす手故、主人おきあわせ刀をぬき切はらい追候へハ、わきさし(脇差)を落し逃候由、夜中故、何者と云事不知候へ共、落候わきさし主人拵候てとらせたるわきさし故、し(知)れ候

その脇差は主人が拵えて与えた物でした。元々、小姓は主人の信頼厚い人物だったようです。その後、公儀の詮議により、死罪となりますが、主人に傷を負わせた従者は、逆罪として日本橋で晒し者となります。三日間の晒しの後、小塚原(荒川区南千住)の刑場へ向かうのですが、御屋しき前ひかれ候時、右主人門前にて主人の名を高ク呼、「首を預けおき候、三年ノ内二おもひしらせん」と申候よし、不届者ニ御座候也

主人への並々ならぬ恨みを感じさせます。そもそも「しかり」の原因は何だったのでしょうか。本之儀ハ下女に密通いたし、それ故不届共有之、追出シいたされ候

密通を咎められた……。何となく、納得しかかりましたが、

さて下女ハ其後主人の妾ニなり候と申沙汰(噂話)いたし候也



この一文で、元朝はこの日の日記を締めつけています。下女が主人の妾(原文ママ)になったという噂話を聞きつけたことが、この事件を書き残した理由ででしょうか。「横恋慕」というフレーズが思い浮かびます。真相が見えてきたところで全文を読み返してみると、元朝の小姓への同情のような「やるせなさ」が行間に感じられます。



分間江戸大絵図(岡390)

このように「岡本元朝日記」からは日々の公務の様子だけではなく、日常生活での人間味あふれる視点を感じます。そして、三百年前の人の営みにも現代におけるそれへのものともたたく変わらない共感が生じることに驚きます。

なお、江戸上屋敷は当時、「下谷三味線堀屋敷」と呼ばれ、東門が道を挟んで三味線堀に接していました。「舟にのり、うら藪より寝間へしのび入」ですので、右図「三味センホリ」に接する旗本屋敷あたりが候補ですが、確証はありません。「岡本元朝日記」は刊行本のほか、写真本も当館閲覧室で自由にご覧いただけます。

【高田環樹】

岡本元朝

【寛文元年(1661)～正徳2年(1712)】

3代藩主義処の治世において相手番、家老となる。元朝が中心となった修史事業の過程で収集・書写・編集された『秋田藩家蔵文書』もまた『岡本元朝日記』とともに、秋田県指定有形文化財である。

「六句衆」とは何か

UNLUNT
語の

今年三月で『岡本元朝日記』の翻刻本が完成しました。最終巻の校正の途中で次のような箇所がありました。(正徳元年六月五日条)

「扁照寺右同断、但宝鏡院く今性院、安楽院ハ返盃無之、尤御送も無之也、六句衆ハ献上物も無之く」

この「六句衆」とは何か。原本では「六句」にも見えます。そこで、まず困った時の「日国」(『日本国語大辞典』小学館)を引いてみます。

六句も六句もなく、あったのは「六垢」(仏語。煩惱から生じた六種の心の汚れ)とか、「六尺」(駕籠昇、下僕・下男)とかで、どちらもあてはまらないようです。

『秋田県史』の索引を見ても「六句」や「六句」は出てきません。

そこで藩政期のいろいろな項目を解説する編纂物、これも困った時の『国典類抄』(AS二〇九一―一七)を見てみます。

雑部前編第一〇冊に諸寺院の記載があり、宝鏡院の箇所のように記されています。

「宝鏡院六句九分衆 御城江之御歳暮く」(寛永三年十二月廿七日条)

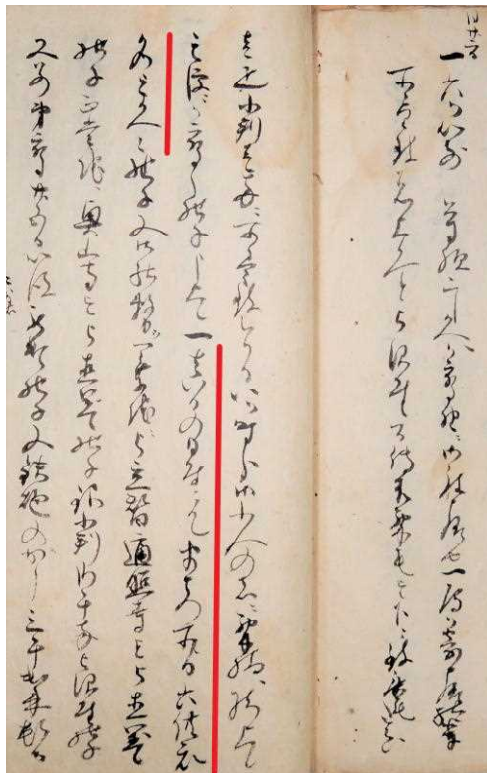
さらに吉田山一乗院の箇所にも左の記載があります。

「去八日之日付にて半右衛門処より六句衆名

をかへ候く」(元和七年十一月廿一日条)

いずれも『梅津政景日記』からの引用であり、かたや「六句」、一方は「六句」です。秋田図書館が刊行した翻刻本でもそうなっています。そこで原典である『梅津政景日記』(A三二一―一三〇)を確認してみます。

寛永三年極月廿七日条には、確かに「六句九分衆」とあるようです。しかし、それ以前の元和七年霜月廿一日条を見ると該当の箇所はありません。次の日の廿二日条に「六供衆」という文字が見えます(写真参照)。



『国典類抄』の一乗院の引用は日付も間違えており、文字も「六句衆」ではなく「六供衆」であることがわかりました。それでは、宝鏡院の引用の「六句」も「六句」ではないのかという疑問がわきます。

『梅津政景日記』は東大史料編纂所で翻刻され、それが『大日本古記録』(岩波書店)の一シ

リーズとして刊行されています(隣の図書館閲覧室で見られます)。その翻刻本で確認すると、「六句(供)九分衆」と翻刻されていました。つまり「句」に見えた字は「句」で、本来は「供」だったのではないか。

そこで最後に、『秋田県の地名』(平凡社)を見てみると、索引に「六供町」「六句町」があり、該当頁を見ると、「手形」の説明箇所に次のように書いてあります。

「宝鏡院の南は六句あるいは六供町、北を手形休下町といった」として、寛永八年(一六三一)に宝鏡院門前の町に割り付けて、「南から扁照寺、次いで宝鏡院の末寺威徳院・泉光院・成福院・松門院・常賢(興)院・梅真院の六供奉寺が並ぶ。六供町、供がなまって六句町はこのときに成立した」

六句は六供であり、そもそもは宝鏡院の末寺の六供奉寺のことで、六供奉寺の住職らを六句衆と呼んだということがわかりました。

こうして「元朝日記」の単語から、「日本国語大辞典」、「国典類抄」(原本と翻刻)、「梅津政景日記」(原本と翻刻)、「秋田県の地名」と調べて、以上のような結論に達しました。こうして「元朝日記」の翻刻は「六句」ではなく「六句」とすることが出来ました。

こんな基本的なことは既に知っているという人もいるでしょうが、「国典類抄」の写し間違いや「政景日記」の翻刻の精緻さなどを知ることが出来て、一つの単語からいろいろと調べる面白さを味わったのでした。

【佐藤 隆】

令和四年度企画展

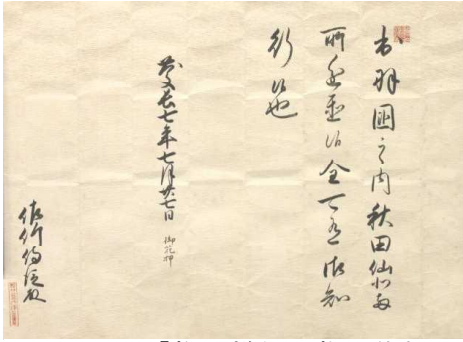
いっしょくくる古文書LIFE

前半 八月二十五日～九月二十五日 後半 九月二十九日～十月十六日

道行く人に「『古文書』という文字を読んでください」と尋ねるとし

まじしよ。すると、割合多くの方が「こぶんしよ」と読むはず。これは某局のアナウンサーも間違えるほど。正解は「こもんじよ」です。

日本では、古来から公的・私的を問わず、書類を「もんじよ」と呼んでいました。ですので「古文書」は、高等学校国語の時間に学習する「古文の書」ではなく、「古いもんじよ」ということになりま



AS317-7-1「権現様御判物」佐竹氏命の
出羽移封を沙汰した家康の
書の写し

古文書を歴史資料として扱う

「古文書学」の古いテキストを見ると、その定義は「差出人と受取人の双方が存在する文書」とあります。(例・伊木寿一『日本古文書学』昭和5年)こうなると日記等は「古記録」であり、古文書ではないというのです。

しかし、昨今では「古文書」は「くずし字」で書かれています。資料全般と捉えられています。これは「くずし字」が、私たちの日常で使う楷書の文字と違うばかりか、言い回しも全く異なるからでしょう。

何だ、このクネクネ文字は！

↓読めない。理解不能。

↓「古文書」というわけです。

ところが、この「古文書」読み手の私たちが問いかければ、最初は遠慮がちに、次第に饒舌に過去のことを語ります。まさに歴史家のE・H・カーの「歴史とは現在と過去の対話である」(『歴史とは何

か』昭和37年)です。

では「古文書」を自由自在に読むことができるようになるには、どれだけの時間がかかるか？となりますと、余暇時間の多くを割いて学習に取り組む必要があります。古文書と共に歩む人生(「JFE」)になることは間違いありません。

それでも「古文書」は楽しい！

本企画展のコンセプトは、ここにあります。展示は前半・後半大幅に入れ替えますが、いずれも最初のコーナーでバラエティに富む古文書の世界を紹介します。前半の展示では、その後、久保田城下名所巡り、江戸関連の古文書、また本年3月より公開した横手の郷土史家・伊澤慶治収集資料を展示します。

後半の展示では、江戸時代の秋田美人の絵や「ぐつとくる古文書セレクション」と題して、意外な事実を教えてください、親近感を抱けたり、有名な歴史上の事件を記した古文書などを展示します。

企画展「ぐつとくる古文書」魅力もりだくさんの展示を実施します。皆様の御観覧をお待ちしております。

「記憶の護り人養成教室」

始まりました

今年度当館では、未整理資料の整理技法を学ぶ「記憶の護り人養成教室」を開講。「記憶の護り人」とは、古文書を読むことができるから一歩進んで、古文書を整理することができると意図する当館の造語。

資料番号をたどれば、未整理状態の塊に復元できるよう講師が番号をつけ、受講者に古文書を手渡します。その瞬間に受講生が見せる「何とか読めそうだ」「これは難しそうだ」という悲喜こもごもの表情を見るのは乙なものです。教室は毎月一回の全八回。はりきって指導に当たります。

*年度途中での募集はしません。



資料・封筒・データシートを手渡す場面。
受講者：先生、前の方が受け取ったものより難しい気がする。講師：「平等取扱の原則」とあなたの運です。

県政映画上映会開催にあたり

秋田県では、県民の皆様の理解と協力の上に県の仕事を進めていくため、県の活動の広報する方法の一つとして、「県政だより」という10分間の16ミリフィルム短編映画を昭和30年（1955）から制作し、市町村への巡回上映、フィルムライブラリーを通じて映写会等を行いました。

翌昭和31年（1956）には、さらに多くの県民の皆様に見てもらうため、当時多くの人を集めていた映画館で上映できるよう35ミリフィルムで制作され、本編映画の幕あいなどに上映されていきましたので、ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

昭和32年（1957）からは「県政ニュース」とタイトルが変わり、昭和48年（1973）からはカラー映画化され、昭和53年（1978）まで制作されました。県事業のPRだけでなく、昭和30年代、50年代前半の県内各地域の生活や文化、産業など様々な話題をスクリーンに映し出しておりました。

公文書館では、これらの県政映画

を保存しており、この一部を大きなスクリーンで鑑賞できる上映会を毎年実施しています。昨年度は東京オリンピックの開催年でもありましてので前回、昭和39年の映画を上映いたしました。

今までは、8月と11月の年2回、当館多目的ホールで開催しておりましたが、本年度は8月25日（木）、26日（金）の2日間連続で行う予定にしております。「秋田昭和の時代映像アーカイブ」をテーマに、昭和30年・40年代に上映された郷土秋田の懐かしいニュース映像数本の上映を本年度も企画しております。是非当館に足をお運び、ご鑑賞ください。また、当館2階の閲覧室におきましては小型モニターではありますが、月替わりのプログラムを毎日放映しておりますので、こちらも是非ご覧ください。



昭和30年代の「県政ニュース」冒頭

所蔵資料の出版・掲載・放映等の利用について

当館所蔵資料の複写物は、許可を受けていただければ、出版・掲載・放映又はウェブサイト等へ掲載することが可能です。映像資料の上映なども行うことができます。

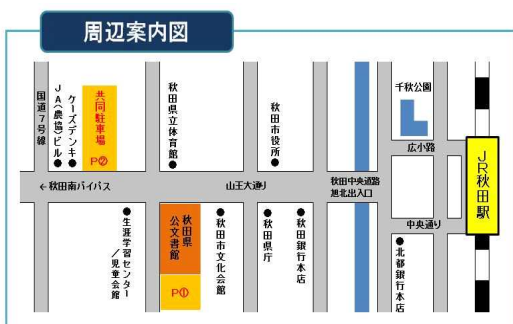
「出版・掲載・放映等許可申請書」の提出があった場合、①公文書館の設置の目的に反するおそれがないか、②公文書館の業務に支障をきたすおそれがないか、③第三者のプライバシー等の人権を侵害するおそれがないか、等を審査します。申請手続きの説明や申請書等の様式は、当館公式ウェブサイト内「閲覧室と資料のご利用方法」に詳しく記載しておりますので参考とさせていただきます。

原資料の複写物は次の方法でご入手いただくことが可能です。

- ①「閲覧・複写申請書」を提出の上、利用者ご自身が当館で撮影する。
- ②当館が公開するウェブサイト「デジタルアーカイブ」で資料を検索し、スクリーンショットで保存する。（公開資料は限られます）
- ③当館がツイッターに投稿中の画像を利用する。

編集後記

6月9日は「国際アーカイブズの日」です。第二次世界大戦後の1948年6月9日に国際公文書館会議（ICA）が設立されたことを記念し、2007年に制定されました。大戦では、各地で何世紀も保存された膨大な記録が簡単に失われました。21世紀の現代も、戦火の中で多くの記録が消えています。平和の中でも私たちが保存の重要性に無関心になれば、記録は人知れず散逸してしまいます。皆さん、当館の講座や企画展、上映会を通して保存された記録が語る話に耳を傾けてみませんか。（知）



当館ツイッターはこちらからどうぞ



編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）
 電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前
 URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsoyo/>